学校法人金沢学院　清鐘台通信　第234号　2008年8月29日

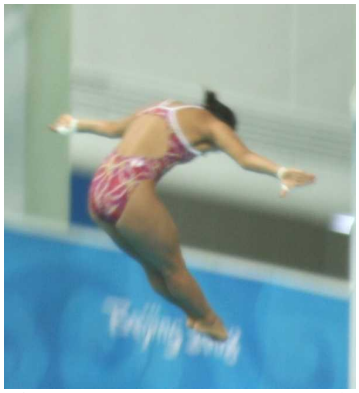
本学関係の北京五輪3選手

期待に応え奮闘

八月八日から二十四日まで開かれた北京オリンピックに、日本代表選手として参加した学校法人金沢学院の三選手は、ウエイトリフティングと水泳高飛び込みの各競技で、鍛えた力と技を存分に発揮しました。スタンドからは応援ツアーを組んで乗り込んだ教職員が大きな声援を送り、代表選手は期待に応える奮闘を見せました。

10位に食い込んだ新谷選手

日本記録を出した齋藤選手



準決勝で演技する中川選手

新谷、入賞はならず

ウエイトリフティングの男子69キロ級に出場した新谷義人選手（法人職員）は、スナッチ3回目に自己タイとなる135キロを挙げ、クリーン&ジャークでは2回目に175キロに成功、トータル310キロで10位に入りました。ジャーク3回目には日本新記録となる177キロに挑戦しましたが、惜しくも及びませんでした。

齋藤、8位に入賞

同じくウエイトリフティング女子69キロ級に出場した齋藤里香選手（東高校教員）は、スナッチ2回目に87キロをクリア、ジャークでは2回目に120キロ、3回目に122キロと立て続けに自己の持つ日本記録を更新し、トータル209キロで8位入賞を果たしました。

大舞台で日本記録を更新した齋藤選手は長谷場久美女子監督（金沢学院大学ウエイトリフティング部コーチ）に抱きつき喜びを表しました。

中川、決勝進み11位

水泳の女子高飛び込みに出場した中川真依選手（金沢学院大学経営情報学部スポーツビジネス学科3年）は予選、準決勝とも300点を超える得点を挙げて決勝に進出しました。決勝では入水に失敗する演技が続き、悔し涙を流したものの、「（次回五輪の）ロンドンに向けてさらに技術を磨きたい」と早くも次の目標を見据えました。

出場選手成績

＜ウエイトリフティング＞

～12、13日　北京航空航天大学体育館～

・**新谷義人**　男子69キロ級　10位／30人
　スナッチ135キロ　ジャーク175キロ

・**齋藤里香**　女子69キロ級　8位／10人
　スナッチ87キロ　ジャーク122キロ＝日本新

＜水泳・女子高飛び込み＞

～20、21日　国家水泳センター～

・**中川真依**　11位

予選	331.4点	9位／29人
準決勝	314.6点	10位／18人
決勝	296.3点	11位／12人

豪州ボンド大学で研修

金沢学院大学のオーストラリア・ボンド大学研修は八月三十日から九月十五日まで行われ、文学部と経営情報学部の学生六人がホームステイをしながら、英語のレッスンを積みます。

参加する学生は文学部国際文化学科二年生三人、同三年生二人、経営情報学部スポーツビジネス学科三年生一人で、同学部の笠間弘美教授が引率します。

教職員が現地で応援

教職員の応援ツアーは、前半のウエイトリフティングに向けて新谷選手の家族親戚を含め二十四人、後半の高飛び込みには中川選手の家族を含めて二十人が参加しました。日本ウエイトリフティング協会長を務める飛田秀一学校法人金沢学院理事長も駆けつけ、教職員と一緒に応援しました。齋藤選手の応援には母校である京都・加悦谷（かやだに）高校関係者も訪れました。

それぞれの会場で応援団は、日章旗などを掲げて大きな声援を送り、試技が成功するたびに大きな拍手を送り、健闘を称えました。

ウエイトリフティングの応援に臨んだ教職員ら

水泳高飛び込みの応援に駆けつけた教職員ら

発行・広報室